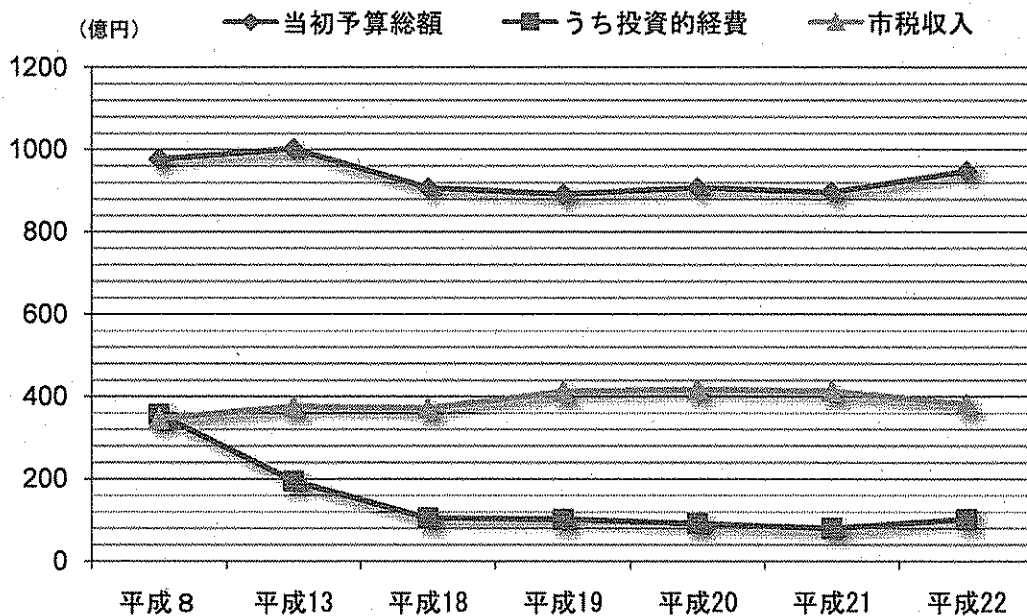


明石市の施政展開方針について

1 一般会計予算額の推移

	当初予算総額	うち投資的経費	市税収入
平成 8 年度	977 億 4900 万円	357 億 1700 万円	347 億 2600 万円
平成 13 年度	1001 億 9100 万円	195 億 700 万円	375 億 8900 万円
平成 18 年度	907 億 7200 万円	105 億 1700 万円	371 億 7300 万円
平成 19 年度	892 億 1600 万円	102 億 5400 万円	412 億 6500 万円
平成 20 年度	907 億 6900 万円	91 億 9700 万円	417 億 8000 万円
平成 21 年度	897 億 1400 万円	80 億 3100 万円	412 億 8400 万円
平成 22 年度	948 億 100 万円	102 億 6700 万円	382 億 4100 万円



2 最近 5 年間の主要施策

平成 18 年度

少子高齢化など社会の急速な、そして大きな変化の中で、確かな明石の未来を拓く「創造的革新」をキーワードとして、「コミュニティの再構築」「地域の元気アップ」「教育・福祉の充実」「安全安心の推進」「行政改革の更なる推進」の 5 つの重点施策を中心とした様々な新規・拡充事業を実施

＜主な事業＞ 乳幼児等医療費助成の拡充、学校園・保育所の警備強化、コミュニティバスの本格運行、上大池広場（明石北わんぱく広場）の整備、第 61 回国民体育大会の開催、市民交響楽団（たこフィル）の設立、障害児タイムケア事業の実施、（仮称）西部地区保健福祉センター（ふれあいプラザあかし西）の整備、ユニバーサル社会づくりの推進、敬老優待乗車券の充実、明石駅市民サービスコーナーの土・日・祝日開庁、庁舎建設基金の創設、市バス大久保営業所管内の路線移譲 など

### 平成 19 年度

地方分権が本格化するなかで、これまで以上に自立に向けて動き出す年とするため「分権自立への始動」をキーワードとして、「明石の強みや良さを活かしたまち」、「将来のまちを見据えた投資」、「きれいなまち」、「教育・福祉の充実」、「自立のための仕組み」の 5 つの視点を中心としたまちづくりを推進

＜主な事業＞ 中心市街地活性化基本計画の見直し、明石海峡クルーズへの支援、松江公園の整備、（仮称）西部地区保健福祉センターの整備、和坂斎場の全面改築、「きらりん明石 ポイ捨てバツテン運動」の展開、自立支援サービスの利用者負担の軽減、こども夢文庫の設置（こども基金の活用）、幼稚園の午後保育週 5 日に、オンブズマン制度の導入、指定管理者制度の導入 など

### 平成 20 年度

明石の強みをさらに活かすことにより、課題を解決し、自立したまちとしてより一層発展させていくため、「元気なまち明石」をキーワードに、「中心市街地活性化へのこだわり」・「安全・安心へのこだわり」・「賑わいへのこだわり」・「人づくりへのこだわり」・「自立へのこだわり」の 5 つの視点から、まちづくりを推進

＜主な事業＞ 中心市街地活性化に向けた組織体制の整備、小さなことから始める街のリフォーム事業の実施、都心循環バスの社会実験運行、障害者キャリアアップ事業の実施、緊急地震速報システムの整備、産科医等修学等資金貸与制度の創設、源氏物語千年紀記念事業の実施、明石海峡大橋 10 周年記念事業の実施、JR 魚住駅の周辺整備、山陽電鉄東二見駅周辺の整備、子ども図書館の設置、明石商業高校のスポーツ科・会計科（仮称）の開設への取組、小学校区コミュニティ・センターの充実 など

## 平成21年度

世界的な経済危機のなか、市民の暮らしの安心の確保と、地域経済の活性化を図るための緊急的措置とともに将来を見据えた課題に対応するため、「緊急対応と将来展望」をキーワードに、「人づくり」・「安全・安心づくり」・「賑わいづくり」・「都市基盤づくり」・「地域戦略づくり」の5つに力点を置いたまちづくりを推進

＜主な事業＞ 「ほん だいすき！プラン」の推進、学校施設の耐震化、こんにちは赤ちゃん事業の実施、(仮称) 障害者就労・生活支援センターの設置、安心の医療確保政策の推進、中小企業融資への支援(信用保証料の市負担を拡大)、新型インフルエンザ対策の推進、ふれあいプラザあかし西のオープン、小さなことから始める街のリフォーム、野球によるまちの賑わいづくり(ドリーム・ベースボールの開催)、総合的な浸水対策(側溝の設置、雨水管の整備等)、山陽電鉄連続立体交差第2期事業の推進、自治基本条例・第5次長期総合計画の策定 など

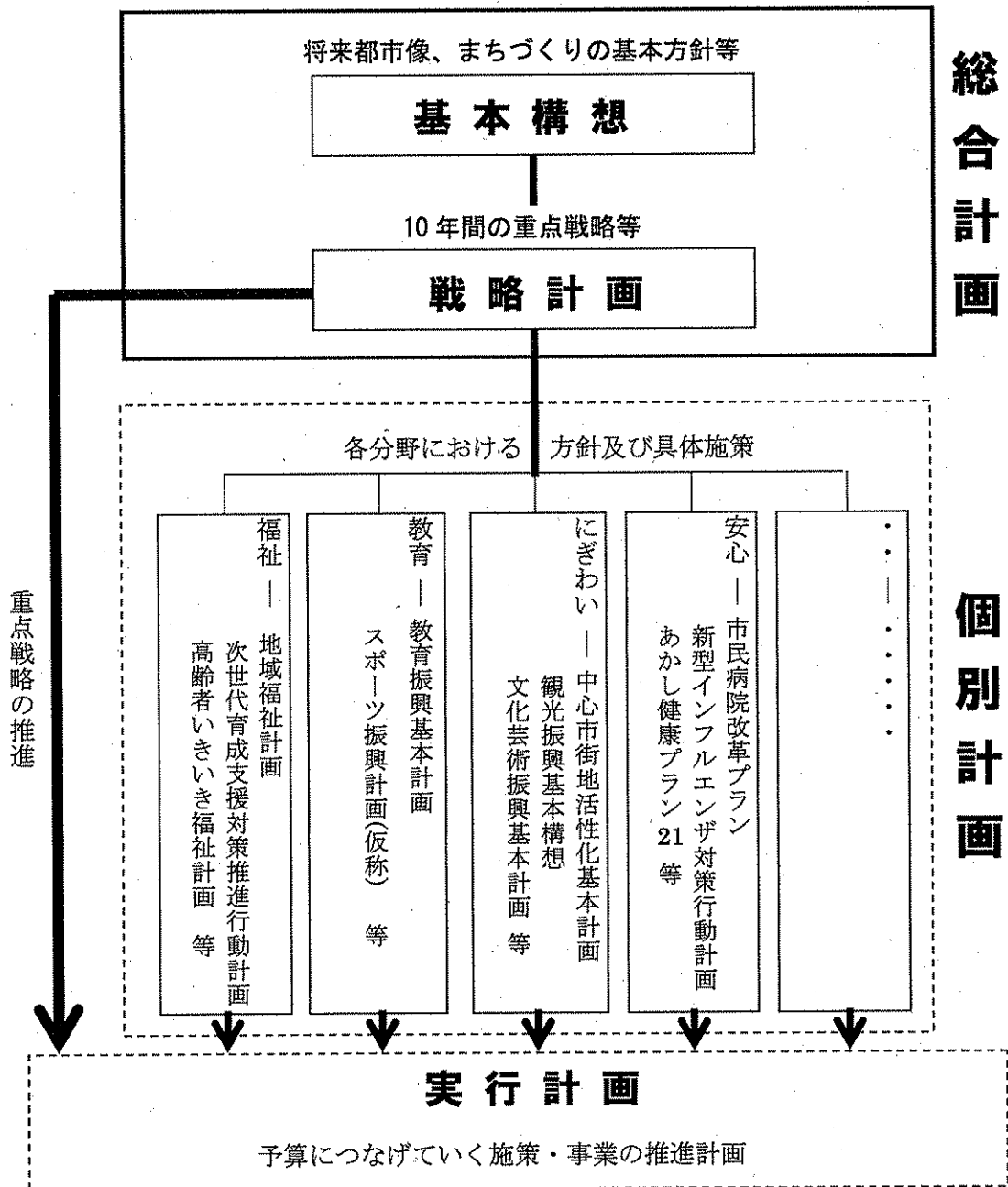
## 平成22年度

極めて厳しい社会経済情勢の中、市民が抱える不安や悩みに対するきめの細かい生活支援・経済対策が求められています。また、厳しい時代であるからこそ、明石独自の強みや良さを活かした事業を展開し、市民と産業を元気づけ、まちに賑わいを創出していくため、「暮らしを守り、未来を拓く」をキーワードに、「生活・産業を守り育む」・「福祉・教育を守り育む」・「地域・文化を守り育む」の3つに力点を置いたまちづくりを推進

＜主な事業＞ がんばる出店者応援事業(空き店舗対策中心市街地モデル事業)、プラモデル甲子園の開催、天文科学館リニューアルオープン、観光道路電線共同溝事業の実施、大型観光バス駐車場設置事業、子宮頸がんの予防ワクチン接種に対する助成、ヒブワクチン接種に対する助成、要援護者を対象とした戸別ごみ収集の実施、西明石地区、魚住地区に子育て支援センターを新たに開設、中学校給食のあり方の検討、業務改善コンサルティング調査の実施、市役所情報システムの再構築、地域情報知っ得システム(地域コミュニティ情報交流システムの運営)、雨水貯留タンク購入助成制度の導入、明石SUNSUNプラン(グリーンカーテンの設置・住宅用太陽光発電設備の設置への補助) など

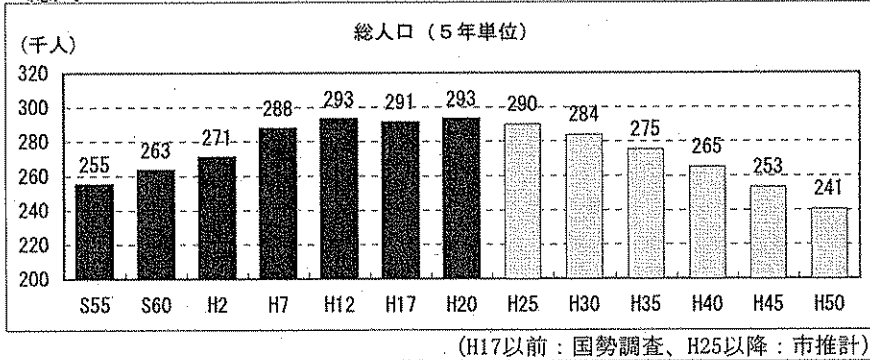
### 3 第5次長期総合計画の策定

現行の明石市第4次長期総合計画が、平成22年度末で計画期間の満了を迎えることから、少子高齢化や地球環境問題の深刻化、地域と個人のつながりの希薄化など、着実に押し寄せている社会環境の変化に的確に対応するとともに、明石の持つ特性と資源を最大限に活かしながら、市民福祉の維持向上と持続可能な地域社会を築くための指針として、明石市第5次長期総合計画を策定



# 1. 人口

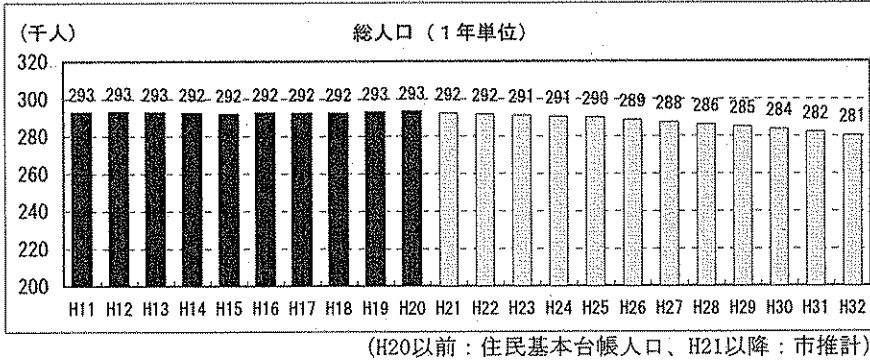
## (1) 総人口



・10年後(H30)  
△9千人,284千人  
・30年後(H50)  
△52千人,241千人

・全国(H17→H32)  
△500万人,1億2274万人

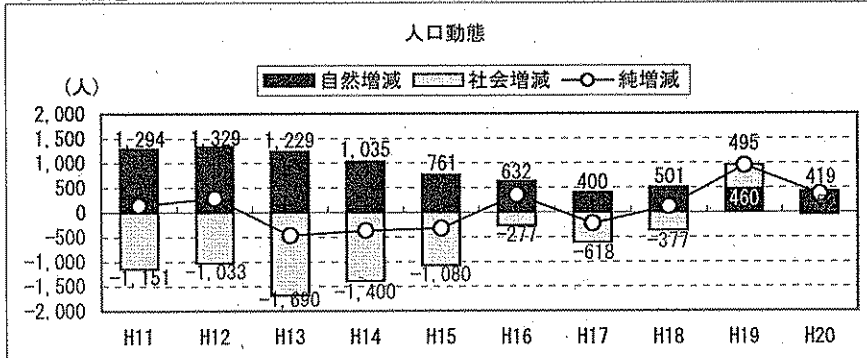
・全国(H17→H52)  
△2207万人,1億0570万人



・H18から3年連続で人口は微増

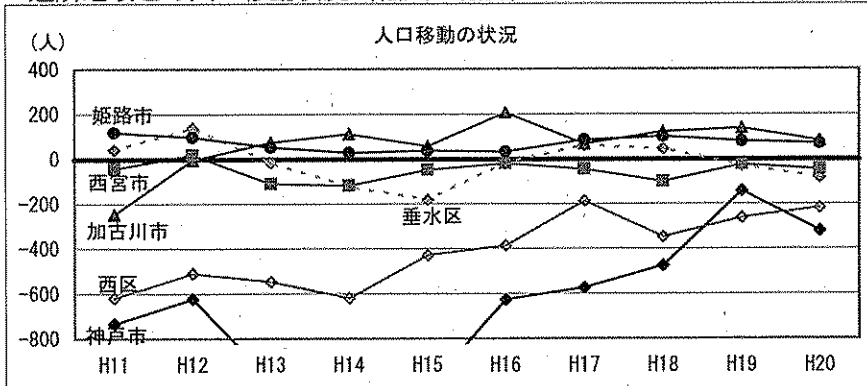
※県内市町(H21.4.1)  
1 神戸市 1,533千人  
2 姫路市 536千人  
3 西宮市 479千人  
4 尼崎市 462千人  
5 明石市 292千人  
6 加古川市 268千人  
7 宝塚市 223千人

## (2) 人口動態



※県内市町(H20年中)  
1 神戸市 +3310人  
2 西宮市 +2254人  
3 宝塚市 +1188人  
4 尼崎市 +800人  
5 伊丹市 +737人  
6 芦屋市 +415人  
7 三田市 +406人  
8 明石市 +367人

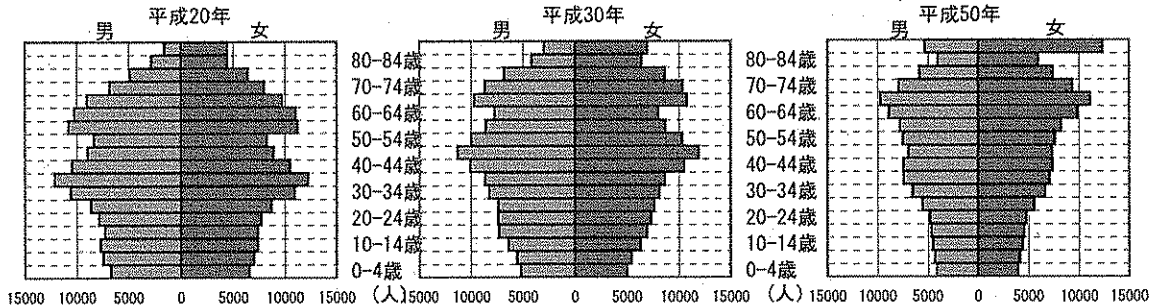
## (3) 近隣地域との人口移動状況（転入—転出）



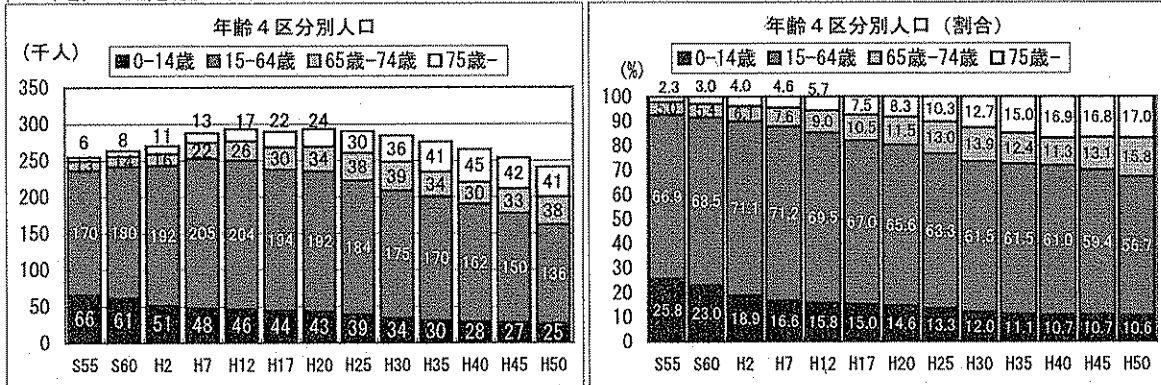
・神戸、阪神地域  
→転出超過傾向

・播磨地域  
→転入超過傾向

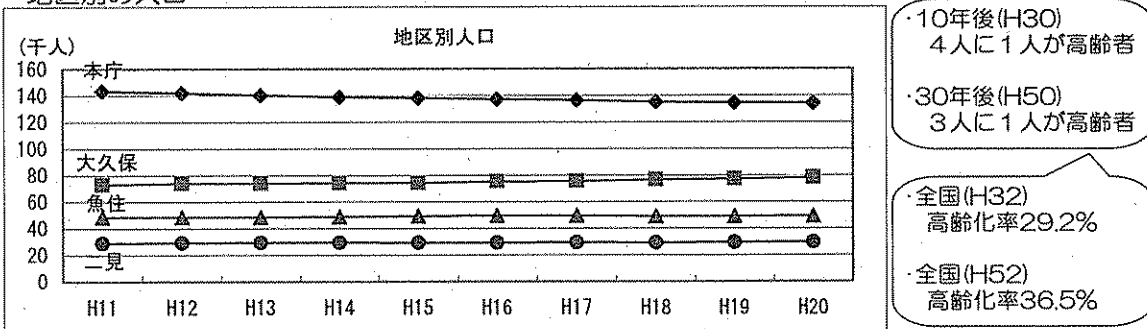
(4) 5歳階級別の人口



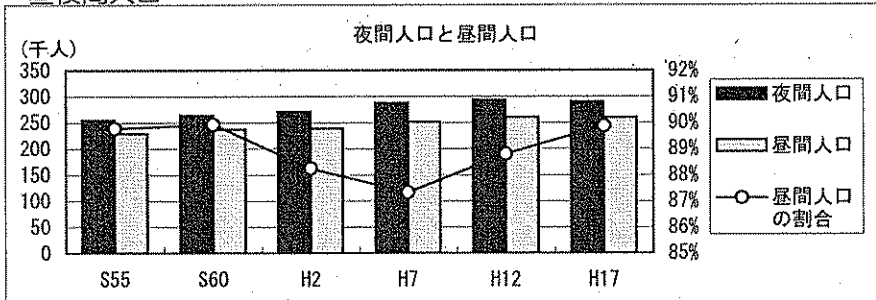
(5) 年齢4区分別の人口



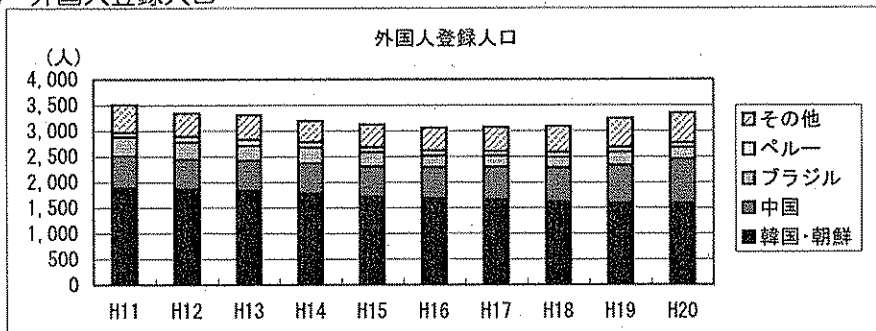
(6) 地区別の人口



(7) 昼夜間人口

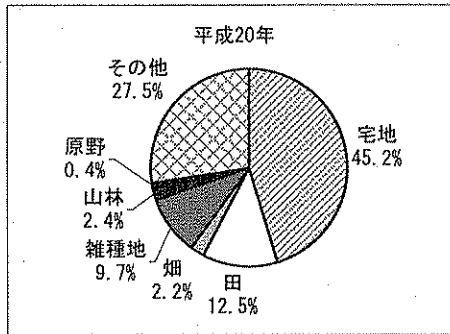
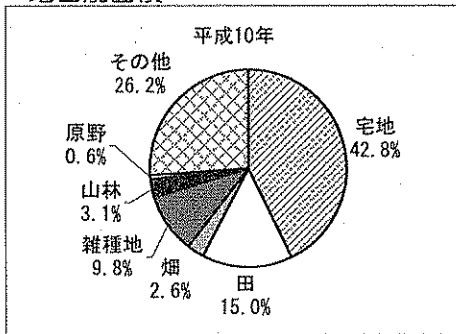


(8) 外国人登録人口



## 2. 土地利用

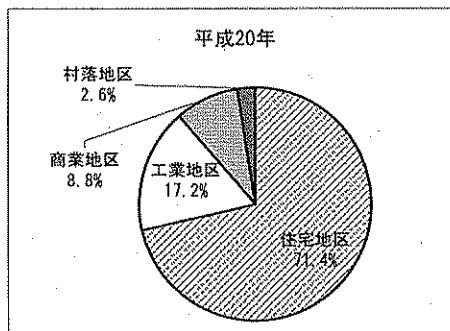
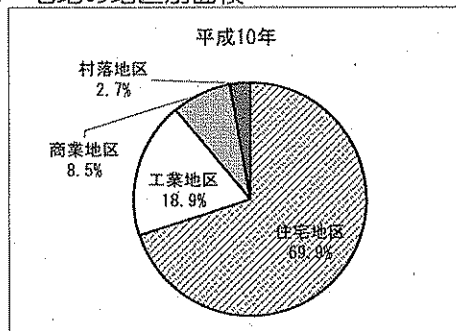
### (1) 地目別面積



・宅地の割合が増加  
10年で2.4%  
1.16km<sup>2</sup>増

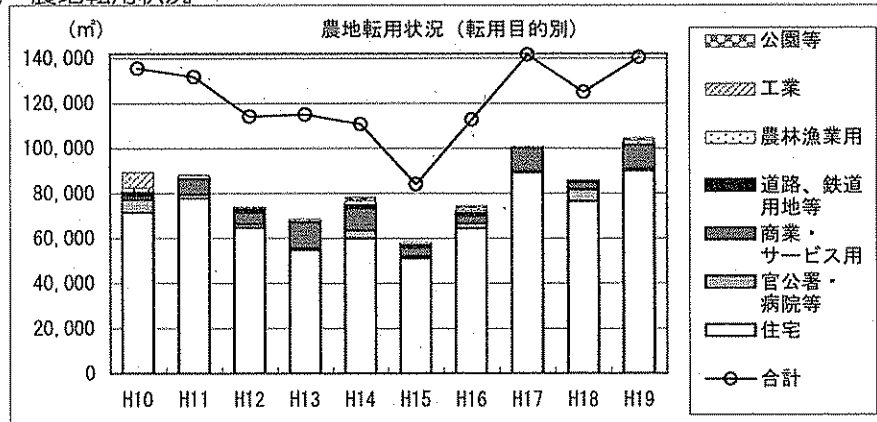
・田畑の割合は減少  
10年で計2.9%  
1.39km<sup>2</sup>減

### (2) 宅地の地区別面積



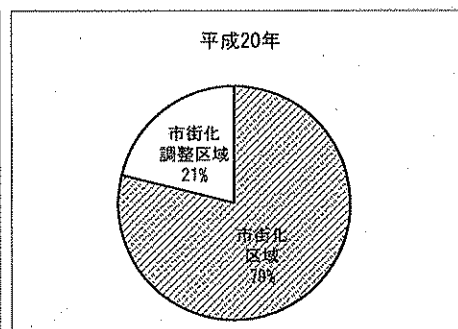
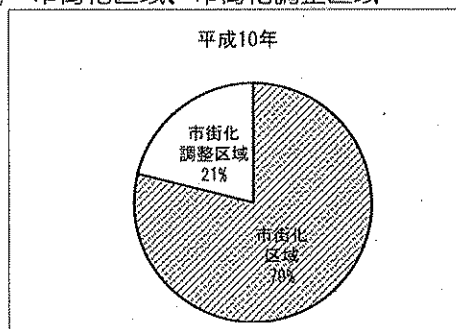
・工業地区が減り、  
住宅地区・商業地区  
が増加

### (3) 農地転用状況

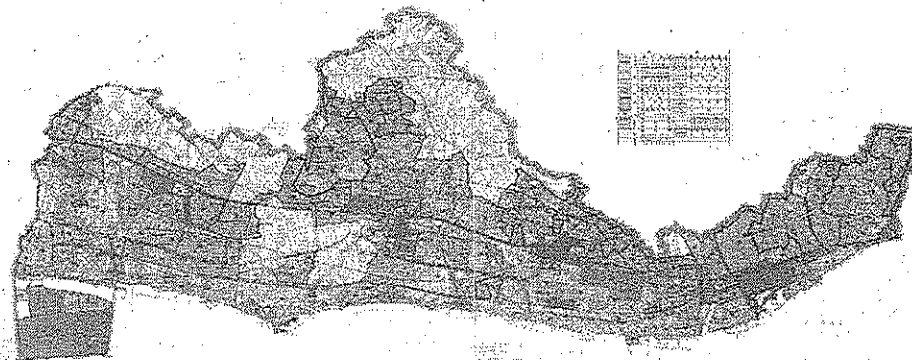
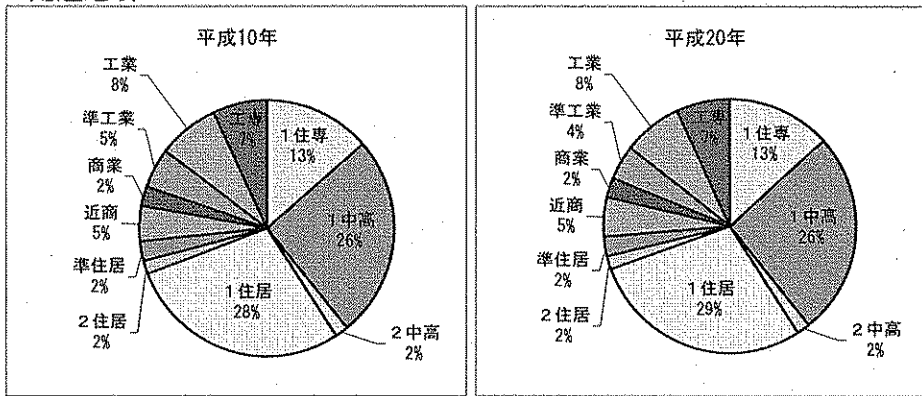


・近年、農地転用は  
増加傾向  
・住宅への転用が多く、  
商業・サービス用への  
転用も比較的ある

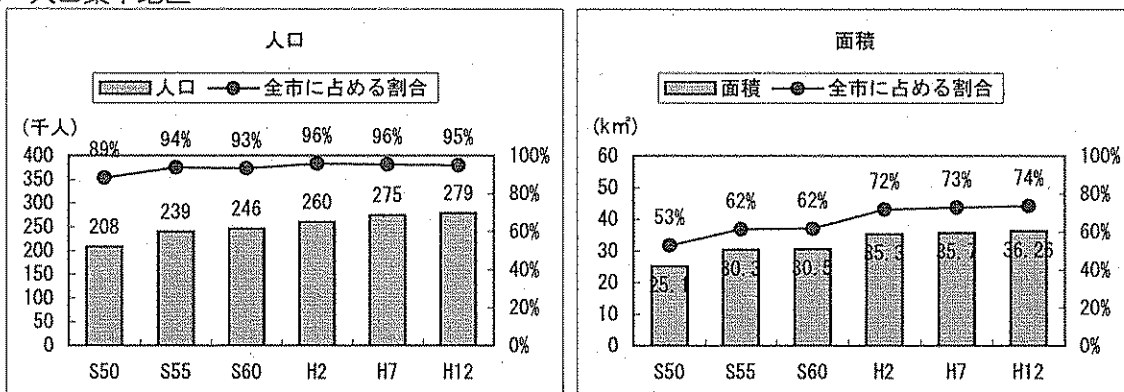
### (4) 市街化区域、市街化調整区域



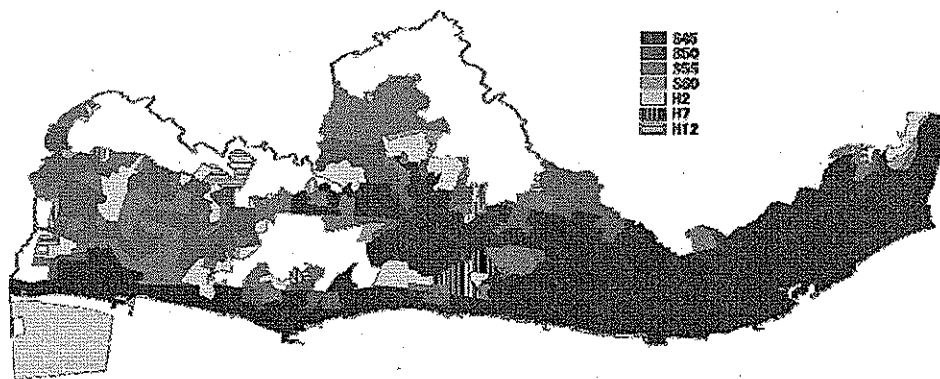
(5) 用途地域



(6) 人口集中地区



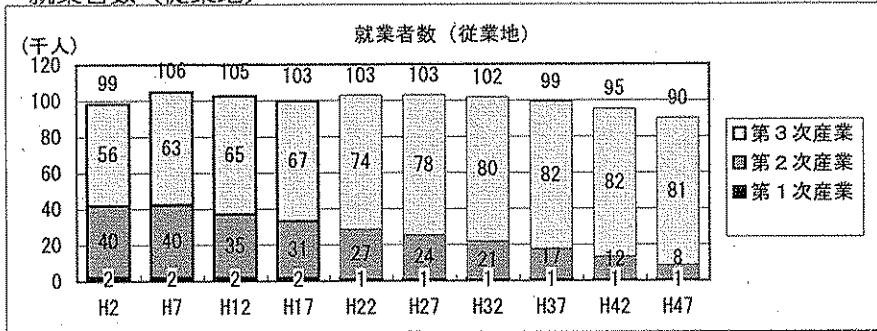
※国勢調査基本単位区等を基礎単位として、1)原則として人口密度が1平方キロメートル当たり4,000人以上の基本単位区等が市区町村の境界内で互いに隣接して、2)それらの隣接した地域の人口が国勢調査時に5,000人以上を有するこの地域



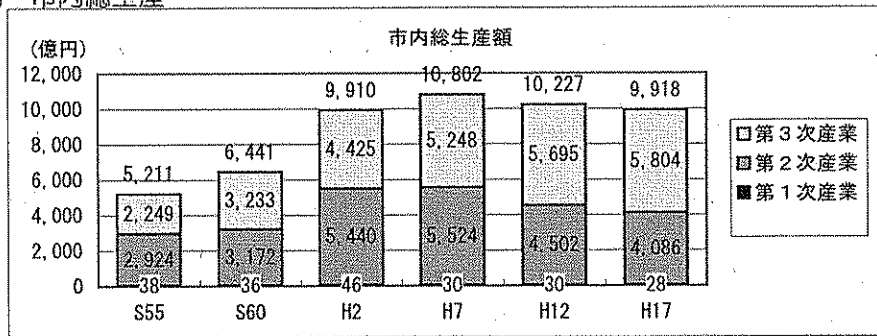


### 3. 産 業

#### (1) 就業者数（従業地）



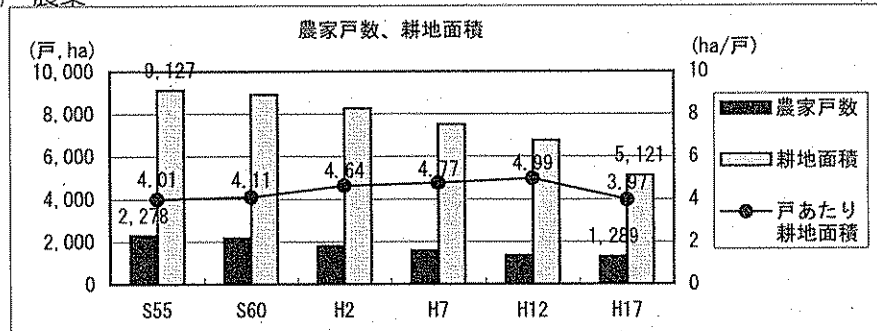
#### (2) 市内総生産



県内 総生産  
(H18年度)

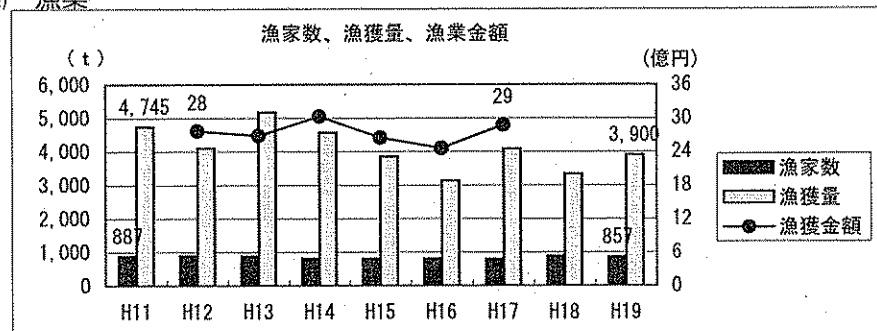
- 1 神戸市 64290億円
- 2 姫路市 22303億円
- 3 尼崎市 16423億円
- 4 西宮市 10410億円
- 5 明石市 10105億円
- 6 加古川市 8226億円
- 7 伊丹市 6539億円

#### (3) 農業



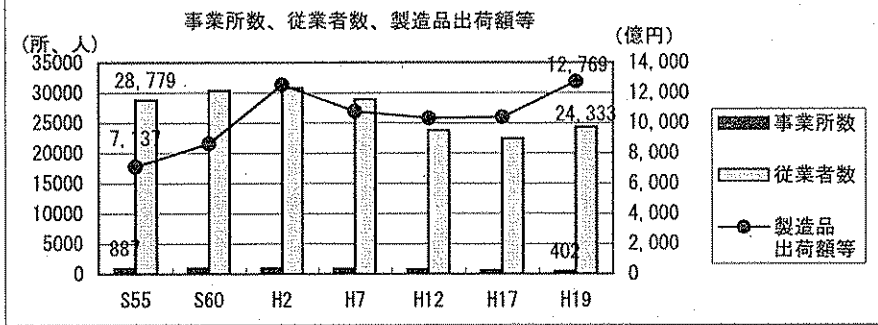
農家戸数、耕地面積とも減少が続く

#### (4) 漁業



漁獲量は全体的に減少傾向

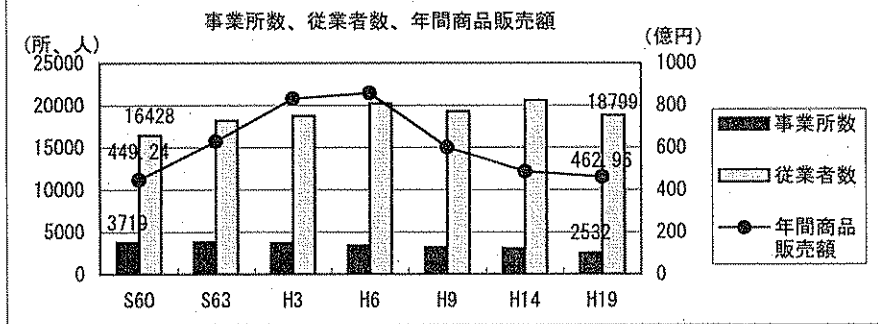
(5) 工業



県内 製造品出荷額等 (H19年中)

- 1 神戸市 29038億円
- 2 姫路市 23854億円
- 3 尼崎市 16496億円
- 4 明石市 12768億円
- 5 加古川市 9214億円
- 6 高砂市 9131億円
- 7 伊丹市 7698億円

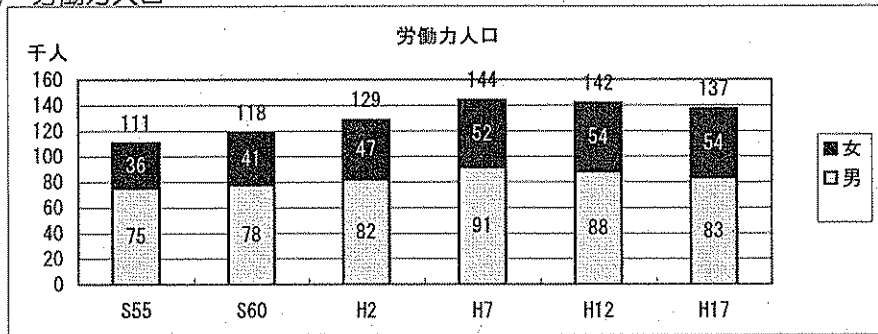
(6) 商業 (事業所数、従業者数、商品販売額)



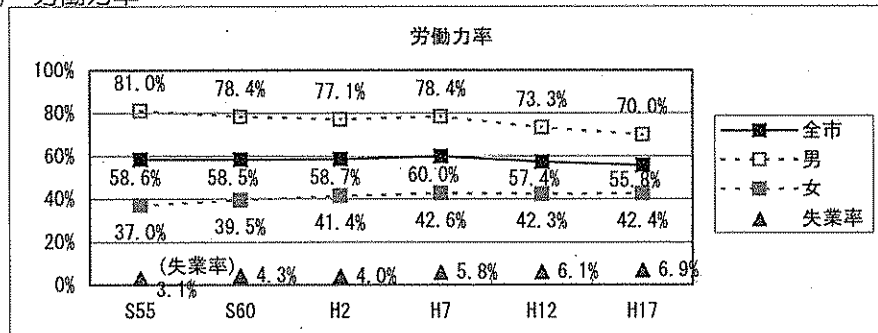
県内 年間商品販売額 (H18年度)

- 1 神戸市 58167億円
- 2 姫路市 17506億円
- 3 尼崎市 8310億円
- 4 西宮市 7677億円
- 5 加古川市 4668億円
- 6 明石市 4629億円
- 7 伊丹市 3956億円

(7) 労働力人口



(8) 労働力率



女性の労働力率は横ばい  
男性の労働力率は減少傾向

※労働力率=労働力人口/15歳以上人口  
※失業率=完全失業者/労働力人口

